

## (9) 客観的なファシリテーターがいない SWOT 分析検討会

SWOT 分析を外部コンサルタントを使わず、社内でやっている事業所も多いようだ。

社内で実施する場合の留意点は、現実論や異論がなかなか言えない雰囲気になっている事が多いので、十分配慮が必要だ。

いわゆる、ブレインストーミングにならない場合があるのだ。

ここで社内のメンバーのみで SWOT 分析検討会を行う場合のポイントをいくつか紹介する。

- ① 社内検討の司会者・ファシリテーターが議事をコントロールできるかどうかが一番大事。
- ② 多すぎる参加者では本格的な深い議論がしにくい  
(当社では 8 名くらいを Max と見ている。勉強会を割り切れば、それはそれで意味があるが…)
- ③ 声の大きい人、立場のある人の発言だけに左右されないようにする。
- ④ ネガティブ意見に左右されないようにする。
- ⑤ 意見の出し合いごっこではないから、絞り込み表現、固有表現しか受け付けられないようにする。
- ⑥ 経営者が司会すると、物事は決まるかもしれないが、意見は出にくい。
- ⑦ 小さい声、あまり意見を言わない人の声をしっかり収集する
- ⑧ 積極戦略や致命傷回避・撤退縮小戦略、優先順位付けは経営者の意見をしっかり反映させる。  
経営者が納得していない戦略を認めても、後が続かない。

売り込みではないが、SWOT 分析検討会では外部のプロのコーディネーターやコーチ、ファシリテーターがいた方が客観的・円滑に進みやすい。

それは利害関係がない方が、基本に忠実に意見集約や方向性を導けるからである。

本書でも後述しているが、私が経験した 100 超の SWOT 分析検討会の中から、16 業種事例を掲載しているが、ある程度固有名詞で埋まっているのは、そういうコーディネートをしたからだ。